産経新聞
平成4年(1992年)7月17日　金曜日　（河内）　26

大阪

河内

ニュース、写真提供
催し物等のお知らせ
は社会部へ
大代表　06(343)1221
社会部　06(345)3200
FAX　06(346)2300
販売のご用は
06(344)2222

熱演に盛大な拍手

劇団「松ぼっくり」旗揚げ公演

八尾の松尾クリニック

患者らの劇団「松ぼっくり」の旗揚げ公演。多くの市民でにぎわった

八尾市東本町三の松尾クリニック（松尾美由起院長）の患者と医療スタッフで結成した劇団「松ぼっくり」が十六日、同市光町二の市文化会館で旗揚げ公演を行い素人とは思えない熱演に盛大な拍手が送られていた。

同クリニックでは短い診療時間以外にも患者の日常生活を指導し、病気の不安を精神的にも支えることができれば、と患者の会「松樹会」を結成。病気や治療についての勉強会や七宝焼、書道などの教室を開いて交流を深めている。劇団はその活動をさらに進めて、病気やその治療について広く知ってもらおうと結成した。

公演で取り上げた「桜屋敷」は横浜市在住の放送作家、篠崎博さんが脚本を書き、松尾院長が演出を担当。八尾の邸宅に住む、元大学教授が心筋こうそくで倒れ、周囲の人の人情に包まれて病気と闘うというストーリー。総勢約四十人のスタッフ・キャストは十七歳から八十一歳で、キャスト二十二人のうち十七人が患者。昨年十二月から毎週土曜日の午後に、待合室でけいこを重ねてきた。

この日の公演は当初、夜一回だけの予定だったが、見たいという市民らの希望が多く、急きょ昼夜の二回実施。それでも約四百席はほぼ満席という人気ぶり。初めのうちは観衆を前に動きが硬かった出演者も次第に慣れ、一回約一時間半の公演をこなしていた。

また、幕間には松尾院長がスライドを使って心筋こうそくの症状や治療法の解説も行い、観客は熱心に聞き入っていた。